

2015年4月1日

2015年度入社式 社長挨拶

第一生命保険株式会社(社長:渡邊 光一郎)は、2015年4月1日(水)に入社式を行いました。
社長挨拶の主旨について、別紙の通りお知らせ致します。

2015年4月1日新入職員

| | |
|--------------|------|
| グローバル職 | 95名 |
| エリア職 | 59名 |
| 総合営業職 | 474名 |
| 機関経営職 | 46名 |
| カスタマーコンサルタント | 20名 |
| 計 | 694名 |

新創業5周年 ～新たな成長ステージをスタートするにあたり～

新入職員の皆さん、ご入社おめでとうございます。皆さんを心から歓迎します。

5年前の2010年4月1日、当社は株式会社化ならびに上場を果たしました。その日、私は「第一生命保険株式会社」の初代社長として「新創業」に乗り出すことを宣言しました。

創業以来の精神として、独自性と先見性に裏づけされた、絶えざる創造への挑戦をするという「志」が、「お客さま第一主義」という変わらない経営理念のもとに脈々と受け継がれてきたからこそ、第一生命グループは100年を超える長い歴史を築いてくることができました。「お客さま第一主義」の経営理念を貫徹するために株式会社化・上場を果たし、経営理念とともに当社の伝統や強みである、経営品質にこだわる経営、変革力や人間力を継承していかなければなりません。

「新創業」とは、第一生命グループを構成する全ての組織と一人ひとりの役職員が、株式会社化を機に、創業以来の絶えざる創造への挑戦という起業精神に回帰し、従来の単なる延長ではない価値創造と成長戦略を遂行していこうという「志」の在りようを表すものです。これは、独自性の発揮による価値創造経営「DSR¹経営」を皆で実践していこうということに他なりません。

あれから5年、振り返れば戦後最大の被害をもたらした東日本大震災がありました。欧州危機もありました。加えて、長引くデフレ・低金利等、当社にとって決して追い風とは言えない環境の中にもありました。そうした逆境に向かって、第一生命グループの総力を結集して、DSR 経営を進化させながら着実に成長への礎を築くことができました。

とりわけ、中期経営計画「Action D」では、グループを挙げて更なる飛躍に向けて挑戦することで、1年前倒しで経営目標を達成することができました。加えてプロテクティブ社、ネオファースト生命の M&A 等を通じグループの事業構造を大きく変化させる等、十分な成果を得ることができました。

本日の新創業5周年を出発点として、新しい中期経営計画「D-Ambitious」の下、新たな成長ステージが始まります。先人から受け継いできた絶えざる創造への挑戦をする「志」を、私たちはさらに高く大きな「鴻志」、「Ambitious」へと強くし、オール第一生命グループで邁進していきたいという決意を込めて、新中期経営計画を「D-Ambitious グループを挙げた持続的価値創造の実現」と銘打ちました。ここからが私たち第一生命グループの真価が問われる新たな持続的成長ステージへの旅立ちとなります。

第一生命グループの未来の成長と発展の原動力は、皆さんのプロフェッショナル、チームワーク、変革力です。

皆さんお一人おひとりが、自らを鍛え自らが立つという「自鍛自立」によって、最初の所属の業務に一刻も早く精通し、プロフェッショナルとしてのタテ糸を紡いでほしいと思います。次にチームワーク力によって自分ひとりでやるよりもっと大きな仕事を成し遂げるというヨコ糸を通してほしいと思います。その上で、タテ糸とヨコ糸だけの薄い布地ではなく、立体的で強く厚みのある絨緞のように、個性を発揮して創意工夫という自らのパイル糸をタテ糸とヨコ糸に結び付けてほしいと思います。

そして、摩擦を恐れなくてください。私の好きな言葉は、「変化は摩擦を生み、摩擦は進歩を生む」。組織に新しく入ってきた皆さんは、皆さん自身が「変化」であり、摩擦を生むものです。そして、皆さんが摩擦を恐れず、現実と理想のギャップを埋めようとする、それがこれから皆さんが着任する組織の進歩を生み、変革を導きます。

皆さんが第一生命グループのさらなる変革と価値創造を担い、未来を築いていかれることを期待し、歓迎の言葉といたします。

以上

¹DSR(Dai-ichi's Social Responsibility)経営とは、全社でPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルを回して経営品質向上に努め、ステークホルダー(利害関係者)の皆さまへ価値を提供する、第一生命独自の価値創造経営です。